

災害復旧時の製品事故の防止について（注意喚起）

災害の復旧までは、ガス・石油機器や小型発電機等を使用する機会が増えることが予想されますが、これらの製品は、使い方によっては火災や一酸化炭素（CO）中毒（※1）などの事故を引き起こす危険があります。特に、屋内で小型発電機を使用したことによる一酸化炭素（CO）中毒事故など震災の影響による事故も発生しております。これらの事故を防止するため以下の注意事項を守って正しく使用してください。

（※1）一酸化炭素（CO）中毒とは

ガス、石油又は炭などを燃焼したとき、新鮮な空気（酸素）が不足すると不完全燃焼を起こし、一酸化炭素（CO）が発生します。一酸化炭素は、無色・無臭のため気が付きにくく、また血液中のヘモグロビンと結合しやすいため、たとえ少量であっても血液中に取り込まれると血液の酸素運搬能力が低下して死に至ることがあり、非常に危険です。

1. 燃焼機器を使用する場合について

（1）石油こんろ、カセットこんろ、七輪又は石油ストーブ等の利用について

電気、ガス等の供給不足が見込まれるため、石油こんろ、カセットこんろ、七輪又は石油ストーブ等の燃焼機器を使用する機会が増えることが予想されますが、狭い部屋又はテント等の閉めきった場所で換気を行わず長時間使用すると、酸素が不足して一酸化炭素（CO）が発生し、一酸化炭素（CO）中毒（※1）になるおそれがあります。定期的に窓を開ける等換気をし、十分に注意をして使用してください。

（2）ガス給湯器の利用について

家屋の修復工事等でビニールや布で囲って養生する際にはガス給湯器の給排気口を覆わないでください。燃焼に必要な空気が十分に供給されないため点火不良によって燃焼室内にガスが溜まり、火災を引き起こすおそれや不完全燃焼による一酸化炭素（CO）中毒のおそれがあります。

（3）カセットこんろについて

①カセットこんろ用ボンベ（カセットボンベ）は、カセットこんろ本体に正しく装着してください。カセットボンベの切欠き（凹部）部とカセットこんろの容器受けガイド（凸部）をしっかりと合わせてください。合っていない場合、カセットボンベと本体との結合部から漏れたガスに引火爆発して火災を引き起こすおそれがあります。（図1参照）

図1 カセットボンベと本体との結合部からのガス漏れによる爆発（再現実験より）



NITEミニポスター「カセットこんろの爆発事故」参照
<http://www.nite.go.jp/jiko/poster/data/0270.pdf>

②カセットこんろのボンベカバーまで覆うような大きな鍋や鉄板は、使用しないでください。また、カセットこんろを複数台並べて使用しないでください。
放射熱(※2)や伝い火によってカセットボンベが加熱されて爆発するおそれがあります。
(図2参照)

図2 放射熱によるカセットこんろの爆発（再現実験より）



カセットこんろ2台を横に並べ、鉄板を上に乗せてバーナーを点火（火力は「強」）

点火から8分34秒で左側のカセットこんろの「圧力感知安全装置」が作動し、バーナーの火が消える

点火から12分55秒で右側のカセットこんろのカセットボンベが破裂、爆発

NITEミニポスター「放射熱によるカセットこんろの爆発事故」参照
<http://www.nite.go.jp/jiko/poster/data/0110.pdf>

(※2) 放射熱とは

高温の物体から放射され、離れている他の物体に吸収されて温度を上昇させる熱エネルギーのことです。「輻射熱」ともいいます。

2. 小型発電機を使用する場合について

- (1) 小型発電機（ポータブル発電機）の運転中の排ガスには、一酸化炭素が多く含まれています。一酸化炭素（CO）中毒になるおそれがありますので、屋内では絶対に使用しないでください。
- (2) 屋外でも風通しの悪いところでは、一酸化炭素（CO）中毒になるおそれがありますので、風通しの良いところで使用してください。

3. 停電復旧時の対応について

(1) ガス・石油機器及び電気製品の利用について

ガス・石油機器及び電気製品（以下「機器等」という。）の外観、電源コード、プラグに異常があるもの、強い衝撃を受けたものや水に浸かった製品は、使用する前に必ずメーカーや販売店の点検・修理を受けてください。衝撃の影響で燃焼機器のバーナーがずれていたり、水の影響で内部部品が腐食している場合があります、火災を引き起こすおそれがあります。

(2) 使用する際の手順について

- ①停電の復旧前に分電盤の全てのブレーカーを切り、全ての機器等のスイッチを切った上で、プラグを持ってコンセントから抜いてください。スイッチが入っていた場合、復旧時に異常のある製品に通電されることにより発火のおそれがあります。
- ②機器等の外観に異常がないかを確認してください。
- ③電源コード、プラグ、テーブルタップ及び延長コードに傷や折れがないか、またコードが家具や荷物に踏まれていないかを確認してください。
- ④ブレーカーを入れ、機器等のプラグを1台ずつコンセントに差し、様子を確認しながら使用してください。発煙や異臭を感じた場合には、直ちに使用をやめてください。

4. ガス復旧時の対応について

- (1) ガスの復旧時のガス漏れを避けるため元栓を閉めてください。
- (2) ガスが復旧した直後は、管の中に空気が入り込んでいて火がつきにくいいため、何度も着火を試みた過程で火がつかなかったガスが周りに残っていることがあり、引火爆発のおそれがあります。ある程度の間隔をおきながら操作してください。

5. その他の注意事項について

- (1) 水の入った丸いペットボトルの置き場所は、直射日光の当たらないところとしてください。太陽光によって収れん火災が起きるおそれがあります。
- (2) 乾電池は燃やさないでください。破裂するおそれがあります。
- (3) やむを得ずカセットボンベのガス抜きをする場合は、風通しの良い火気のない屋外で行ってください。
- (4) 余震による製品の転倒事故を防止するため、設置場所の安全を確認してください。

以上

(本件に関する問い合わせ)

製品安全センター製品安全調査課

葛谷、亀井、三好

電話：06-6942-1113